

分科会A

発表順	A-1	
氏名	所属	タイトル
新庄 慶基	中村学園大学	数式処理システムMAGMAを用いたプログラミング授業の実施報告および受講学生の理解度について
<p>概要：本講演では、講演者の所属大学・学部において特別開講科目「情報処理演習（再履修クラス）」という授業が、2023年度より開講されており、その科目の授業実施報告である。本科目では、数式処理システムMAGMA（MAGMA Calculator）を用いたプログラミング授業を実施しており、本学会参加者の多くは、数式処理システムMAGMAを知らないと思われるため、数式処理システムMAGMAがどのようなものか紹介する。次に、本科目は、プログラミングに関する科目であるとともに、受講学生の算数および数学、情報系の理解度の把握も目的としており、それらに関する内容の効果測定の結果などについても報告する。最後に、受講学生の満足度や、今後の課題について、時間が許す限りお話ししたい。</p>		

発表順	A-2	
氏名	所属	タイトル
鶴田 侑己	大分大学	数式処理システム MAGMAを用いたフィボナッチ数列及びペル数列の研究 -三項間漸化式とレピュニット数に関する指数型不定方程式-
<p>概要：フィボナッチ数列は自然界にも関わりがある数列として、広く一般の人にも知られている数列である。また、ペル数列はフィボナッチ数列の定義を少し変えた数列であり、この数列も数学においては重要な数列である。レピュニット数は全ての桁が1であるような自然数のことで、未だにレピュニット数に関する未解決問題も存在する。フィボナッチ数列やペル数列とレピュニット数の関係については2015年にB. FayeとF. Lucaが研究を始めて以降、様々な数学者が研究を行ってきた。本研究では、過去に研究されてきた数式を一般化し、数式処理システムMAGMAを用いることによって、興味深い関係を導くことに成功したためそれらを報告する。</p>		

発表順	A-3	
氏名	所属	タイトル
富川 拳	日本大学	保育施設におけるICTシステム利用の現状
概要：		

発表順	A-4	
氏名	所属	タイトル
加藤 司	琉球大学	水産高校における包括的個別学習支援システムによる自由進度学習の実践と学習効果の検証 - 包括的個別学習支援システムの設計と長期的実装における評価 -
<p>概要：本研究は、水産高校の「小型船舶」授業において、ICTを活用した自由進度学習を導入し、その教育効果を検証した。以前の講義形式の一斉授業では、生徒が並行で実施される実技実習で講義を抜けるため、生徒間で学習進度に差が生じる課題があった。そこで、Microsoft Teamsに映像授業とMicrosoft Formsを組み込んだ包括的個別学習支援システムを開発し、それを自由進度学習の形で実践した。この授業は、ガニエの「9教授事象」に基づき、映像授業、問題集、フィードバック機能を組み込むことで、生徒の個別学習を支援できるように設計した。介入実験の結果では、本システムを利用したクラスの学習効果が講義型授業と同等以上であり、特に成績上位者の成績が向上した。生徒の学習意欲も高まり、多くの生徒が自己ペースでの学習を肯定的に捉えていた。この実践は他教科にも応用できる可能性が示されたが、教材開発の負担や理解が遅い生徒への対応が課題として残っている。</p>		

発表順	A-5	
氏名	所属	タイトル
樋口 直樹	大学生協事業連合九州地区	電子辞書ビューアDICTOOLと語学学習と私 —学生モニターアンケートと私的体験を踏まえた考察—
<p>概要：大学生協では、従前の電子辞書や紙の辞書に替わる学習ツールとして、電子辞書ビューア「DICTOOL（ディクトゥール）」を開発し、大学生と教職員に提供している。DICTOOLは2022年に大きくリニューアルし、WEB上のコンテンツサービスになったことで、機能性と利便性は大きく飛躍し、使いやすくなった。九州地区において、2023年6月～2024年1月にかけて、九州の現役学生300人にDICTOOLのモニターになっていただき、日常の勉学研究の場面で、DICTOOLを活用していただくことで、具体的にどのような役に立つのかを調査した。この調査により、DICTOOLは従来の電子辞書の置き換えにとどまらず、語学学習をはじめとして、大学生生活の勉学研究に非常に役立つツールとなっていることが明らかになった。今回の発表では、それらのモニターアンケートに寄せられた声に基づく使用実感を紹介するとともに、新しい使い方や発展の方向性について考察する。</p>		

分科会B

発表順	B-1	
氏名	所属	タイトル
大井 陸翔	日本大学	スポーツビジネスにおけるスマートスタジアムの有用性
<p>概要：近年、政府の取り組みとして「みる」、「する」というスポーツの魅力を最大化させるため、テクノロジーを活用する取り組みが行われている。スマートスタジアムという、ICTを活用した競技場の事例や、利用者の声から、現在の取り組みの良い部分と、改善する部分についてアンケート調査を行った。事例とアンケート調査を元に、今後のスポーツやスマートスタジアムの更なる発展のための提案を行う。スポーツの魅力を高める、ICTの活用方法を検討し、今後のスポーツ市場の更なる発展に寄与することを切に願う。</p>		

発表順	B-2	
氏名	所属	タイトル
野田 雅喜	日本大学	電子機器の利用方法と健康状態について
概要：		

発表順	B-3	
氏名	所属	タイトル
柴田 隼弥	日本大学	若者のデジタル依存とデジタルデトックスの検討
<p>概要：本稿では、デジタル機器の急速な普及により、若者が健康面で様々な影響を受けている現状と、それに伴うデジタル依存の問題について述べている。特に、睡眠障害や運動不足、精神的ストレスが指摘されており、これに対する対策として「デジタルデトックス」の有効性が注目されている。デジタルデトックスは、意図的にデジタル機器から離れる時間を設けることで、ストレス軽減や集中力向上などの効果があるとされ、調査対象である大学生の多くもその有用性を実感している。一方で、デトックスが必要と感じない学生も多く、今後の啓発が必要とされる。</p>		

発表順	B-4	
氏名	所属	タイトル
作田 駿大	日本大学	高齢者のスマートフォン活用率向上に向けた支援団体設置の必要性
<p>概要：50人の高齢者(65歳以上)に対し、スマートフォンの使用状況や環境についてのアンケートを実地で調査しました。 アンケート内容としては -スマートフォンを使う目的は何か -スマートフォンを活用できていると感じるか -使用する際に不安に感じることはあるか -どんな点に不安を感じるか -使い方に困ったとき教えてくれる人は周りにいるか -スマートフォンをより活用したいと思うか -スマホ教室等の支援サービスを利用したことがあるか -教えてくれるサービスや団体が必要だと思うか です。 今回の発表では、アンケート途中であるため26人に対し、アンケートをとった結果を発表し、その発表におけるフィードバックを次の研究に生かしていきたいと思っております。</p>		

発表順	B-3	
氏名	所属	タイトル
大川原 朋希	日本大学	災害対策の意欲調査
<p>概要：本研究では、被災経験の有無が大学生の防災意識や行動に及ぼす影響を明らかにし、災害意欲の向上を目的としている。日本では毎年多くの自然災害が発生し、特に大規模な地震や台風、豪雨災害などによる被害が深刻化している。そのため個々の災害対策の意識向上は重要視されている。アンケート調査は、家族との防災の話し合いや備蓄の準備、ハザードマップの確認、災害時の情報収集手段などに焦点を当てて行った。調査結果から被災経験の有無問わず両社とも約7割が災害対策を行っているが、全くしていない人の割合も一定数いるという現状が明らかとなり、災害対策意識の更なる向上が求められる。また、災害時の情報収集手段として、正確な情報を迅速に入手し、偽情報に惑わされない意識の醸成が必要であると考察し、特務機関NERV防災アプリのような信頼性の高い防災ツールの認知度を高め、若年層を中心とした災害意識の向上を目的としている。</p>		